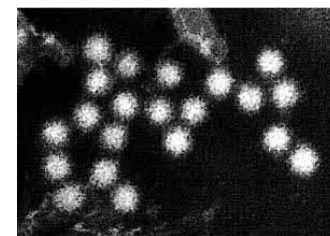


感染性胃腸炎流行期への備え ～最近の傾向から

北海道岩見沢保健所 健康推進課健康支援係

おさらい1：ノロウイルスの特徴

- ・ 人の腸内のみで増殖（食品中では増えない）
- ・ 熱で不活化できる（中心温度85～90℃で90秒間以上加熱）
- ・ **わずかな量でも感染する**
- ・ **排出期間が長い**
- ・ **感染しても症状の出ない人もいる**
- ・ **いろいろな遺伝子型があり変異する**
- ・ **効果のある消毒方法が限られる**



おさらい2：主な症状

- **嘔吐、下痢、腹痛、発熱、頭痛**
→**風邪によく似た症状**
- 症状が現れない場合もある（不顕性感染）
- 潜伏期間：1～2日
- 通常2～3日で症状は回復
→回復後も便へのウイルス排出が持続

おさらい3：免疫獲得と検査について

- ▶ ウイルスには多くの型があり、変異するので、流行型が変わる。免疫で防げず、過去に感染してもまた感染する。
- ▶ 医療機関で実施する検査は「検査陰性」＝「ウイルスなし」とは限らない

「有症状＝感染している」とみなして対応することが大事

感染拡大防止のポイント

- ▶ 流行期における消毒について
- ▶ 平常時からの健康観察について
- ▶ 有症者が出た際の対応について

ノロウイルスに効果的な消毒方法

○消毒薬

次亜塩素酸ナトリウムで浸し拭き（スプレーはNG）

→ **便・吐物処理時の濃度は0.1%**

0.1%の消毒液に1分程度浸すことでノロウイルスをほぼ死滅させる消毒効果がある

○加熱（**85℃以上で90秒以上**）

※逆性石けん、アルコールの消毒効果は不十分

※次亜塩素酸水も同様。

次亜塩素酸ナトリウムの使い方



- **吐物などが付着したものの
→ 0. 1%**
- **施設の日常的な清掃（平時）
→ 0. 02%**

【注意点】

- ▶ 使用するときには換気をする
- ▶ 金属を腐食させるため、金属部分に使用した場合は10分後水拭きする
- ▶ 効果維持のため、作り置きは避ける

平常時からのモード切替タイミング

胃腸炎症状者が1例出たとき

- 1例目を見逃さないためには、平時の健康観察が大事
発熱・下痢・嘔吐・腹痛・食欲不振
(咳・咽頭痛・鼻水 など)
- 施設外での体調変化の有無も把握できるとよい。

利用者(入所者)・職員の健康状態の モニタリング

【モニタリングの視点】

○どんな症状が、いつから、どこで出ているか

○集団への拡がりの傾向

利用者(入所者)や職員などに偏りはないか

○症状消失した後、再燃している者はないか

*消失後も最大4週間は糞便中にウイルスが含まれる

感染管理体制～平常時の準備

○感染症対策マニュアルの整備

感染症発生時の情報の集約の方法、具体的な方法や手順を明確にする

自施設の実態に合わせて作成し、「誰が」「何を」するか（役割分担）を明記し、使いながら見直しをする

○施設内感染対策に関する職員等への研修の企画・実施

○職員・利用者(入所者)の健康観察、健康管理

○物品の管理

1例目を把握したら行うこと

- 食事中、レクリエーション中など集団の場で嘔吐した場合は、二次感染を想定しつつ、活動場所の分離・制限や家族等への注意喚起を行う

- 職場内で情報共有し、対策を統一する
 - ・交流行事等の一時中止
 - ・消毒の切り替え（0.02%→0.1%）
 - ・健康状態の把握/有症者の受診
 - ・手洗いの徹底

- 有症者が増える場合、早めに保健所へ相談を。

保健所への報告

集団発生 の定義：

1週間以内に概ね10名以上の有症者（下痢・嘔吐・腹痛などの消化器症状のある者）が発生した場合

拡大予防のためには、10名を待たず有症者の増加傾向をキャッチした時点で相談いただけるとよい。

ノロウイルスに限らず、施設内の健康管理について嘱託医等に相談できるとよい。

平常時の備え

流行時期到来

発生時対策への移行

☀️ 健康状態の把握

嘔吐物の処理

排泄時のケア（オムツ交換）

環境衛生（清掃・消毒）

手洗い・うがい

☀️ 所内会議（仮称）の設置

家族等への注意喚起

施設内行事の確認

マニュアル整備

施設内研修の実施

例えば…

- ・ 利用者の健康状態を把握・集約し、有症者が発生した場合は、施設内会議を開催して、対策の必要性等を協議。
- ・ 速やかに平常時から発生時対策に移行。

- ★ 対策は、状況に応じて具体的に！
- ★ 職員全員で、発症状況と対策を共有！